【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第１区分
【発行日】平成18年12月14日(2006.12.14)

【公開番号】特開2006-112396(P2006-112396A)
【公開日】平成18年4月27日(2006.4.27)
【年通号数】公開・登録公報2006-017
【出願番号】特願2004-303045(P2004-303045)
【国際特許分類】
Ｆ０４Ｃ　18/356　(2006.01)
Ｆ０４Ｃ　29/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ０４Ｃ　18/356　Ｑ
Ｆ０４Ｃ　18/356　Ｋ
Ｆ０４Ｃ　29/00　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成18年10月26日(2006.10.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ケーシング内に圧縮機構部と駆動部とを備えたローリングピストン型圧縮機において、
前記圧縮機構部の構成部品であるシリンダのベーン溝に配設されるベーンの圧縮室側及び圧縮室側と反対側で、前記ベーンに圧縮荷重が加えられるとき、前記ベーンが前記ベーン溝を押圧する側のシリンダに、前記ベーン溝との間に隔壁を有し、前記シリンダを上下方向に貫通するスリットをそれぞれ形成し、
前記両隔壁の上下の端面には、それぞれ上軸受及び下軸受と隙間を設けたことを特徴とするローリングピストン型圧縮機。
【請求項２】
ケーシング内に圧縮機構部と駆動部とを備えたローリングピストン型圧縮機において、
前記圧縮機構部の構成部品であるシリンダのベーン溝に配設されるベーンの圧縮室側で、前記ベーンに圧縮荷重が加えられるとき、前記ベーンが前記ベーン溝を押圧する側のシリンダに、前記ベーン溝との間に隔壁を有し、前記シリンダを上下方向に貫通するスリットを形成し、
前記隔壁の上下の端面には、それぞれ上軸受及び下軸受と隙間を設けたことを特徴とするローリングピストン型圧縮機。
【請求項３】
ケーシング内に圧縮機構部と駆動部とを備えたローリングピストン型圧縮機において、
前記圧縮機構部の構成部品であるシリンダのベーン溝に配設されるベーンの圧縮室側と反対側で、前記ベーンに圧縮荷重が加えられるとき、前記ベーンが前記ベーン溝を押圧する側のシリンダに、前記ベーン溝との間に隔壁を有し、前記シリンダを上下方向に貫通するスリットを形成し、
前記両隔壁の上下の端面には、それぞれ上軸受及び下軸受と隙間を設けたことを特徴とするローリングピストン型圧縮機。
【請求項４】
前記スリットの延設方向は、前記ベーン溝方向に平行でなく、前記ベーン溝方向と所定

の傾きを有して延設されることを特徴とする請求項１～請求項３のいずれかの請求項に記載のローリングピストン型圧縮機。
【請求項５】
ケーシング内に圧縮機構部と駆動部とを備えたローリングピストン型圧縮機において、
前記圧縮機構部の構成部品であるシリンダのベーン溝に配設されるベーンの圧縮室側及び圧縮室側と反対側で、前記ベーンに圧縮荷重が加えられるとき、前記ベーンが前記ベーン溝を押圧する側のシリンダに、前記ベーン溝との間に隔壁を有し、前記シリンダを上下方向に貫通するスリットをそれぞれ形成し、
前記両隔壁の上下の端は、それぞれ上軸受及び下軸受と隙間を有し、
前記両スリットの延設方向を、前記ベーン溝方向に平行でなく、前記ベーン溝方向と所定の傾きを有し、かつ、相互に平行に延設したことを特徴とするローリングピストン型圧縮機。
【請求項６】
使用冷媒が二酸化炭素であることを特徴とする請求項１～請求項５のいずれかの請求項に記載のローリングピストン型圧縮機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
本発明に係るローリングピストン型圧縮機は、ケーシング内に圧縮機構部と駆動部とを備えたローリングピストン型圧縮機において、圧縮機構部の構成部品であるシリンダのベーン溝に配設されるベーンの圧縮室側及び圧縮室側と反対側で、ベーンに圧縮荷重が加えられるとき、ベーンがベーン溝を押圧する側のシリンダに、ベーン溝との間に隔壁を有し、シリンダを上下方向に貫通するスリットをそれぞれ形成し、
両隔壁の上下の端面には、それぞれ上軸受及び下軸受と隙間を設けたものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
本発明のローリングピストン型圧縮機においては、圧縮荷重がベーンに働いたとき、両隔壁がベーンの押圧方向に弾性的に撓むことにより、ベーンとシリンダの片当たりを防止し、接触部面圧を低下させ、同部分の摩耗を防ぎ、潤滑性を改善する。また、両隔壁の上下の端面には、それぞれ上軸受及び下軸受と隙間を設けたので、両隔壁が撓んでも、隔壁及びシリンダ上下に取付けた上軸受と下軸受を摩耗させない。